

令和3年度与論町海洋教育

与論小学校5年生

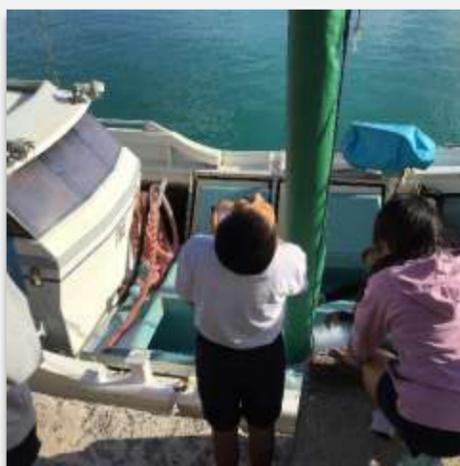
学習のねらい

- ・ サンゴに関する基礎知識を学ぶ
- ・ サンゴ増殖体験を通し、与論町を囲む海の現状について知る



1人ずつ、ブロックへの取り付けにチャレンジ！

～ 授業終わりに ～



漁にでる準備の様子を見学
「この氷、どこからきての??」



漁師さんが捕った「イセエビ」
みんなのコメントは、「美味しそう～」でした。

～サンゴ増殖体験～

今年度も、与論町漁業協同組合さんに御協力いただき、町内の学校向けに「サンゴ増殖体験・経過観察」の授業を実施することができました。与論島近海にも軽石が漂着したため、グラスボートを使った「サンゴ経過観察」は残念ながら1校のみの実施となりましたが、サンゴ増殖体験を通し、今年も貴重な経験をする事ができました。

この日は、与論小学校5年生の授業を見学しました。

授業の前半は、漁協の方から与論島近海のサンゴ礁について、漁協のお仕事についてお話を聞きました。

後半は、「サンゴ増殖体験」です。準備していただいた専用のブロックに、サンゴを取り付けていきます。サンゴがブロックから外れないようにしっかりと取り付けることがポイントです。漁協の方にお手伝いしてもらいながら、無事取り付け完成です。

子どもたちがサンゴを取り付けたブロックは、その日のうちにダイバーさんによって海へ設置されました。

体験後は、屋内に戻って振り返りの時間です。子どもたちからは「サンゴが産卵する時

期はいつですか?」、 「オニヒトデ以外に、サンゴを食べる生き物はいますか?」などの質問が出ていました。サンゴの卵は、スズメダイなどの小さな魚に食べられてしまうこと。また、ブダイなどがエサを食べる際に、サンゴも一緒にかじってしまうことがあると知ることができました。

そして最後に漁協の方から、「サンゴが一番影響を与えているのは、人間かもしれない。」と今感じている事を子どもたちにお話ししていただきました。サンゴ増殖体験を通して、海やサンゴについての知識以外にも、自分たちが海に与える影響についても考えることができる時間になったのではないのでしょうか。